

《第 26 号》「3R な暮らし方のすすめ」

中井八千代(容器包装の 3R を進める全国ネットワーク事務局)

まず、リデュース(発生抑制)。ごみを出さないためには、ごみになるものを買わない、貰わないを徹底することです。ごみにならない、なっても環境負荷の少ないものづくりに変えていく必要があります。生産段階で、再利用を考慮した、環境への負荷が少ない製品づくりを進めるためには、不要になった製品の再利用、再生、あるいは適正処理を行なう責任を製造者に課す拡大生産者責任(EPR)の確立が欠かせません。

次のリユース(再使用)。私たちは、家や車、介護用品にいたるまで、ものを「所有」しながら暮らしています。ものは、壊れたり、不要になるとごみになります。建売住宅は 30 年で経て替え、多量の廃材が排出されます。もし、住み替え住宅やレンタカー、レンタル・リース介護用品だったら? 不要になったら戻し、再び、他の人に貸し出されます。物の機能を利用した後は戻す循環型消費は、リースのコピー機、レンタルの育児用品、貸衣装などで実現しています。

リユースを前提に、設計段階から丈夫な素材、形状が選ばれ、傷む部分のみカートリッジ方式で交換できる長寿命のものに変わっていきます。私たちが欲しいものは、ものではなく、ものの機能であるはず。「ものの所有をやめて、機能を買って使う」新しい生活が、ものの生産のあり方を変え、持続可能な社会を作ります。

さて、誰でも今すぐできる「発生抑制」として、つい貰ってしまうレジ袋を断ることから始めませんか。10 月 5 日、「レジ袋 NO デー全国キャンペーン」が始まります。あなたも、前に貰ったレジ袋やコンパクトなマイバッグをかばんの隅に入れて出かけましょう。

以上